

授業科目 言語学

【担当教員名】 福田一雄	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】

言語学の基本的な考え方と言語研究の歴史を概観し、言語学の各領域を解説する。さらに言語の単位、社会・文化との関係を概説する。言語の単位と言語の単位として、音声、音韻、語の形態、文構造、談話構造を取り上げる。言語と社会・文化との関係を選択体系機能言語学、語用論、社会言語学の視点から考察する。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】

- 1 言語学の基礎的知識を身につける。
- 2 言語学、言語観についての知識を得る。
- 3 現代言語学の研究分野について理解する。
- 4 言語の単位について学ぶ。
- 5 言語の構造について学ぶ。
- 6 言語の社会性について学ぶ。
- 7 言語と文化の相互関係について学ぶ。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	導入 「言葉」あるいは「言語」と聞いて学生諸君が抱くイメージについて話してもらう。		対話と講義
2	言語観 ヨーロッパの言語観とアジアの言語観。		講義
3	言語観 構造言語学と生成文法		講義
4	言語の特徴 言語の恣意性と分節性		講義
5	言語の特徴 言語能力と言語運用		講義
6	言語学の諸分野 形式中心的言語研究（チョムスキーのアプローチ）		講義
7	言語学の諸分野 機能主義言語学、談話文法、語用論の考えかた		講義
8	言語の単位 日本語の音声について。		講義
9	言語の単位 日本語の音韻について。		講義
10	言語の単位 日本語の形態論について。		講義
11	言語の単位 日本語の文構造について学ぶ。		講義
12	統語論の諸問題 日本語の統語現象をさらに詳しく学ぶ。		講義
13	会話と含意 語用論の考え方を学ぶ。		講義
14	言語の社会・文化性 社会言語学、マクロ語用論の視点から日本語と日本文化の関係について学ぶ。		講義

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	使用しない。			
参考書	ジョージ・ユール（著）、今井邦彦・中島平三（訳）『現代言語学20章 - ことばの科学』（大修館書店）			
その他の資料				

【評価方法】

出席、受講態度、レポートなどを総合して評価する。

【履修上の留意点】

授業中の質疑応答などにおける積極性を評価する。